

手束耕治氏、ロイ・レスミー女史、小山賢治氏への  
外務大臣表彰式＜隈丸大使祝辞＞  
2016年8月26日（於：大使公邸）

プツ・チョムナン 教育青年スポーツ省長官、  
ナット・ブンルアン 教育青年スポーツ省長官、  
手束耕治 仏教研究所顧問、  
ロイ・レスミー プノンペン大学  
外国語学部日本語学科長、  
小山賢治 公邸料理人、  
ご家族、ご友人の皆様、ご来賓の皆様、

本年度の外務大臣表彰を受賞された、手束様、レスミー様、小山様への伝達式を、皆様のご出席を得て執り行えることを大変嬉しく思います。お三方におかれては、この度のご受賞、誠にありがとうございます。

ここで、お三方の功績につきそれぞれご紹介させていただきます。

●手束耕治 仏教研究所顧問は、1984年に曹洞宗国際ボランティア会に入会し、バンコク事務所に赴任をされました。その後、タイ・カンボジア国境のカオイダン・カンボジア難民キャンプで青少年事業部を担当され、カンボジア人難民の子供たちのための学校建設、小学校への図書館普及事業、職業訓練所の設置等に尽力されました。

1991年には、同会カンボジア事務所の設立とともに当地に移られ、副所長次いで所長としてカンボジア国内における子供たちへの教育分野における支援にご活躍されました。その後、東京事務所の事務局長を経て、2004年に同会カンボジア事務所事業アドバイザーとして再度赴任をされました。

また、当地日本人社会との関係でも、1991年のカンボジア日本人会設立に中心的な役割を果たされました。過去に2度通算4年間、また現在も日本人会会長を務められており、また日本人会役員も通算7年間務められました。

さらに、2013年から2年間、日本人学校設立準備委員長として日本人商工会をはじめとする各日系企業、各種団体、カンボジア政府機関との調整にあたられました。日本人学校の開校後は事務長を務められ、当地日本人の子女教育に貢献されています。

2014年に、シャンティ国際ボランティア会を退職され、現在はカンボジア政府宗教省仏教研究所顧問をされております。

今回の大臣表彰は、32年間にわたる手束様のカンボジアに関する活動が日・カンボ

ジア間の相互理解の促進に大きく貢献した功績を讃えるものです。また、今日の表彰を機会として、手束様と同様の草の根の活動がますます発展し、日本とカンボジア両国の友好関係がさらに深まることを期待しております。

●ロイ・レスミー プノンペン大学日本語学科長は、1994年に海外青年協力隊員が王立プノンペン大学に開設した日本語講座で日本語と出会いました。98年には、「第1回日本語スピーチコンテスト」で優勝されています。同年から日本語講座で、今度は専任講師として教鞭を執る立場となりました。

2005年には、王立プノンペン大学外国語学部に設立された日本語学科の初代学科長に就任されました。この日本語学科はカンボジアで唯一の正規の日本語学科です。また、2007年の日本語教師会発足に主体的に関わり、自ら会長も務められるなど、日本語教育の振興に比類のない役割を果たされています。

2010年より、各大学や日本語学校の協力により全国の高校を回り「日本語・日本文化普及キャラバン」を実施して日本を紹介し、日本語学習者の増加に貢献、また、日本の13の大学と協定を結び交換留学を促進するなど、両国間交流に貢献しておられます。

今回の表彰を機会として、カンボジアの日本語教育がさらに発展し、先生の活動を通じて、多くの教え子たちが両国の友好の架け橋となり、両国の相互理解がますます深まることを期待しております。

●小山賢治 公邸料理人は、京都で13年間修行を積み、その後、地元である三重県で5年間ご自分のお店を経営された後、海外での日本食文化の発信と更なる発展に貢献したいと公邸料理人を希望し、カンボジアに赴任されました。

当地では、私が公邸で主催する数多くの会食やレセプションで料理を振る舞い、参加された方々から見た目の美しさや華やかさはもちろん、繊細な味付けに多くの賞賛の声をいただきました。

また、日本人会の行事である盆踊り大会への参加や、大使館とCJCC主催の日本文化紹介イベント「絆フェスティバル」での「和食」や「弁当」の実演紹介、テレビ局CTNの料理番組への出演など、カンボジアの方々にも日本食の素晴らしさを伝えてきました。

本日のレセプションで提供させていただきますお料理も全て小山公邸料理人によるものですので、皆様、ごゆっくりお楽しみ下さい。小山さんには、表彰式の本日にも仕

事をして頂いて、本当に恐縮です。

最後に改めてご受賞された三名の方々の今後のご健勝とますますのご活躍をお祈り  
申し上げ、私の祝辞とさせていただきます。

(了)